

「本物」に触れる機会を

10月5日の後期始業式からあつという間に月日が過ぎ、今年度も残り3カ月となりました。

コロナ禍で教育活動が制限されたここ数年とは大きく異なり、今年は、地域社会に開かれた様々な教育活動を実施することができました。修学旅行や宿泊学習、校外学習、近隣の小・中・高校との交流及び共同学習、居住地校交流等々、保護者の皆様はもちろん、地域の方々や、他校の児童生徒・先生方に、子どもたちの元気いっぱい学習に取り組む姿を見ていただく機会を持つことができました。

特に、夏休み以降は活動しやすい季節ということもあり、学校行事が目白押しでしたが、「スクールコンサート」もその一つでした。荒尾太鼓の皆さんやパーカッションのグループ、熊本県警察音楽隊の皆さんなどに学校にお越しいただき、素敵な音楽を届けていただきましたが、まずその音の大きさにびっくり。どの演奏も迫力満点です。大きな音が苦手な子どももいたのですが、後ろで見ていた私の心配をよそに、子どもたちは実に楽しそ



うに音楽に合わせて体を揺すったり手拍子をしたり、自然と体が動き出して立ち上がって踊ったり…。普段、じっとしていることが難しい子どもも、終始笑顔で音楽の世界に惹き込まれていました。音の響き、空気の振動、指揮者や演奏者の腕の動きや息遣い…。目の前で奏でられる壮大な音楽に、子どもたちは時間が経つのを忘れるほど魅了されていました。まさに「本物力」、本物がなせる業なのだろうと実感し、一つでもこの「本物に触れる経験」を子どもたちに…と改めて思ったスクールコンサートでした。

今年も教育活動の中で様々な体験を積み、着実に成長している子どもたち。これからも「本物に触れる」教育活動をさらに充実させながら、子どもたちの明日の幸せのために精いっぱい取り組まねばならないと思います。そして、様々な学びや経験の中で、心と体全体で何かを感じながら、「自分が好きだ」と思えるものを一つでもたくさん見付けて欲しいと思っています。

2023年も残すところあと少し。今年の本校の取組を振り返りつつ、来年に向けてさらに教育活動を充実させてまいりたいと思います。

今年もたいへんお世話になりました。

来年もどうぞよろしく願いいたします。皆様どうぞよいお年をお迎えください。